

伝統のバトン 新たな世代に



青森南高 50周年記念式典

青森市の青森南高校（久保田千夏校長）の創立50周年記念式典が11日、同市のリンクステーションホール青森で開かれた。在校生や関係者ら約800人が半世紀を振り返りながら、今後の一層の飛躍に向けて努力していくことを誓った。

創立50周年記念実行委員

会（関野准一実行委員長）が主催。久保田校長は式辞で「『自主・協和・創造』を綱領に掲げ、時代に求められる教育を追求してきた。新たな50年に向け、在校生に綱領が真に意味するところを常に問いかけてもらい、バトンをつないでい

生徒たちの歌や演奏などを交えながら、生徒会誌などを通じて50年を振り返ったアトラクション

ってほしい」と述べた。

生徒を代表し、3年の松田功太郎さんは「私たちの打たれ強さと突破力は揺るぎない体幹から生み出される。この『南高魂』は永遠に盤石。この先50年もしなやかに、したたかに、南高生らしく突破していく」と力強く宣言した。

アトラクションでは歌や朗読、演奏を交えながら、生徒会誌などを通じて歩みを振り返った。

式典終了後は、同校第10回卒業生で、月刊ムー編集長の三上丈晴氏が「人間・命・自己」と題して記念講演した。

同校は1975年4月に開校。94年に県内唯一の外国語科を設置し、国際理解教育を展開してきた。今年4月から、同科がグローバル探究科に改編され、語学力以外にも探究的な学びを重視。9月には北東北で初めて国際基準の教育プログ

ラム「国際バカロレア」の認定校になった。これまでに1万4028人の卒業生を送り出している。

（兼平昌寛）

東奥日報 2024年（令和6年）11月12日（火）掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。